



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

6月号—No.278

2018.5.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【青藍(せいらん)】紫みのある暗い藍色。

明治以降の新しい色名。曇り空が夜に入って暗くなっていくときの空模様など、青藍と書くとその暗さが暗澹たる気持ちを代弁するように明治の文豪に愛されたい。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会報告

財団からのお知らせ..... 4

「地域創造フェスティバル2018」開催のお知らせ

「市町村長特別セミナー」報告

平成30年度「リージョナルシアター事業」研修会報告

今月の情報..... 6

地域通信

今月のレポート..... 12

山口県山口市 山口情報芸術センター[YCAM]

「YCAM スポーツハッカソン2018」

●平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会

新登録アーティストがプレゼンを披露

平成30年度
公共ホール
音楽活性化事業
全体研修会

2018年4月23日～25日



写真

左上：平成30・31年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティストによるプレゼンテーション。アーバン・サクソフォン・カルテット(サクソフォン四重奏)

右上：同じく登録アーティストの山本奈央さん(オカリナ)

左下：赤丸急上昇によるダンスワークショップ

右下：「おんかつを知るVol.3～事例紹介編～」(左から丹羽徹さん、坂口昌優さん、花田和加子さん、山本若子さん)

●平成30・31年度公共ホール音楽活性化事業登録アーティスト

- 岡田奏 (ピアノ)
- 酒井有彩 (ピアノ)
- 中野翔太 (ピアノ)
- 田中拓也 (サクソフォン)
- 糸賀修平 (テノール)
- 山本奈央 (オカリナ)
- 泉真由×松田弦 (フルート、ギター)
- アーバン・サクソフォン・カルテット(サクソフォン四重奏)

●公共ホール音楽活性化事業に関する問い合わせ

芸術環境部 佐藤・菊地
Tel. 03-5573-4185

平成30年度公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)の参加団体やコーディネーター、登録アーティストが一堂に会する全体研修会が、4月23日から25日まで地域創造会議室とHAKUJUホール(東京都渋谷区)を会場にして開催されました。今回の研修会では、今年度から2カ年にわたって活動する新規登録アーティスト(平成30・31年度)8組による公開プレゼンテーションに加え、今年度の事業に参加する担当者を対象にしたワークショップやレクチャーが行われました。

●担当者の熱意が伝わる事例

初日の研修では、公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)支援登録アーティストの赤丸急上昇(赤松美智代・丸山陽子)による元気いっぱいのコミュニケーション・ワークショップが行われ、一気に緊張がほぐれました。続いて、今年度事業を実施する11施設の担当者に向けて、おんかつについて学ぶ基礎講座や実際の現場を学ぶ事例紹介が行われました。

昨年度の実施事例としては、マリンバの塚越慎子さんを招聘して、議場コンサートなどを

実施したくすまちメルサンホール(大分県玖珠町)の岳尾かおりさんから取り組みを学びました。3年前に幼稚園からホールに異動になったという岳尾さんは、「ノウハウもなく不安でしたが、コーディネーターなどと頻りに相談することができてとても助かりました。議場コンサートでは、議長の提案により中学生の議場体験を兼ね、中学生たちが議員席、町議会議員や職員などが傍聴席というアクティビティが実現しました。また、マリンバとダンスのコラボなどに新しく挑戦したことで協力者が生まれ、仲間がいることも実感できました」と、おんかつの成果に言及されていました。

また、演奏家から取り組みを学ぶ講義には、平成28・29年度登録アーティストとして上里町総合文化センター、南砺市文化創造センターなど5地域に派遣されたヴァイオリニストの坂口昌優さんが登壇。おんかつコーディネーターの丹羽徹さん、花田和加子さん、山本若子さんと共に、市職員に理解を深めてもらうための活動や絵本の朗読とのコラボレーションなど、クラシック音楽との親しみやすい関係づくりについて有意義な意見交換が行われました。

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

●新登録アーティストによるフレッシュなプレゼンテーション

2日目には新たに平成30・31年度登録アーティストになった8組のフレッシュなメンバーによる公開プレゼンテーションが行われました。

トップバッターのアーバン・サクソフォン・カルテットは、地域創造が実施しているアウトリーチフォーラム事業(地域との共催により若手演奏家のアンサンブルとアウトリーチの手法を開発する事業)をきっかけに生まれたグループ。音を使ったキャッチボールやパフォーマンス付き演奏など工夫を凝らしたアウトリーチプログラムを披露しました。アルトサクソの田中拓也さんは、「サクソはソプラニーノからバリトンまで幅広い音域のある楽器であり、その表現の可能性を感じてもらいたいと思っています。新しい楽器でオリジナル曲が少ないので、自分で編曲してレパートリーをつくっています」とアピールしていました。

15歳から12年間、フランスに留学していたピアノの岡田奏さんは、ラヴェルが自らのオーケストラ曲を「ピアノでどう再現できるか」編曲したという『ラ・ヴァルス』を力強く演奏。同じくピアノでニューヨーク留学時代にジャズも勉強したという中野翔太さんは、参加者を舞台上げてガーシュウィンを披露。明るく、怒っているようになど『The Man I Love』の一節をさまざまなテイストで演奏し、「同じ一節なのに弾き方を変えるだけでいくらかでも多彩な情景を生み出すことができる。これが音楽の特徴であり、これを楽しむのに知識はいりません。アウトリーチで子どもたちが元々もっている音楽を楽しむ力を引き出していければ」と中野さん。また、酒井有彩さんはショパン一本槍で勝負し、4曲を披露。「ピアノは300年前から美しい音を出すためだけに改良に改良が重ねられてきました」とピアノ愛をアピールしていました。

登録アーティストとしては初のフルート&クラシックギターの泉真由さんと松田弦さんは高知県出身。南米のタンゴや現代奏法による武満徹、クラシックなど幅広いプログラムで参加

者を魅了していました。また、言葉を失ったオペラ歌手というトリッキーな登場で会場を沸かせたのが、テノールの糸賀修平さんです。「歌手は言葉も音楽も演技も使える。その力を使って、感じる事の大切さを伝えていきたいと思っています」。

今回新たな発見となったのが、おんかつとして初めて取り上げられた「オカリナ」です。自宅には200本のオカリナがあるという山本奈央さんは、「オカリナは今も進化を続けている楽器で、100年後には完成型になっているかもしれません。その進化の過程に立ち会えるのは幸せなことだと思います」と言い、おもちゃのオカリナしか知らない参加者の想像をはるかに超える楽器としての能力・表現力に誰もが引き込まれていました。

- 平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」参加団体一覧(全11団体)
- 北海道帯広市(帯広市民文化ホール)
- 長野県佐久市(佐久市佐久平交流センター)
- 静岡県菊川市(菊川文化会館アエル)
- 愛知県刈谷市(刈谷市総合文化センター)
- 大阪府四条畷市(四条畷市市民総合センター)
- 岡山県美作市(英田公民館)
- 広島県神石高原町(さんわ総合センターやまなみ文化ホール)
- 佐賀県佐賀市(東与賀文化ホール)
- 福岡県久留米市(久留米市城島総合文化センターインガットホール)
- 東京都文京区(文京シビックホール)
- 熊本県菊陽町(菊陽町図書館ホール)

●平成30年度「公共ホール音楽活性化事業」全体研修会スケジュール

| | 4月23日(月) 地域創造 会議室 | 4月24日(火) HAKUJUホール | 4月25日(水) 地域創造 会議室 |
|-------|--|---|--|
| 10:00 | | 「おんかつから始まるホールと地域の未来」 大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所) | 「フィードバックとグループ別企画検討」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子 |
| 11:00 | | | |
| 12:00 | | | |
| | オリエンテーション | 「フィードバック～これまでのゼミを振り返って～」 | |
| 13:00 | 「ワークショップ」 赤丸急上昇(赤松美智代・丸山陽子) | 「プレゼンテーションの聴き方」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子 | 「企画発表」 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子 |
| 14:00 | | | |
| | | 平成30・31年度登録アーティスト公開プレゼンテーション | |
| 15:00 | 「おんかつを知るVol.1～基礎編～」 小澤櫻作 「おんかつを知るVol.2～実務編～」 地域創造 | ●アーバン・サクソフォン・カルテット(サクソフォン四重奏) ●岡田奏(ピアノ) ●山本奈央(オカリナ) ●泉真由×松田弦(フルート、ギター) | 閉講式 |
| 16:00 | 「おんかつを知るVol.3～事例紹介編～」 Ⅰ.平成29年度事例 岳尾かおり(玖珠町)、小澤櫻作 Ⅱ.演奏家事例 坂口昌優、丹羽徹、花田和加子、山本若子 Ⅲ.事業担当者の役割とは 三浦幸恵 | ●中野翔太(ピアノ) ●田中拓也(サクソフォン) ●酒井有彩(ピアノ) ●糸賀修平(テノール) | |
| 17:00 | | | |
| 18:00 | | | |
| 19:00 | | 交流会(～21:00) | |

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2018」開催のお知らせ(7/31・8/1)

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介し、公共ホールや自治体が事業を企画・実施する上で参考になる情報を提供することを目的に、「地域創造フェスティバル2018」を東京芸術劇場(豊島区西池袋1-8-1)で開催します。予定しているプログラムは以下のとおりです。

- ◎シンポジウム「2020の先にあるもの～文化芸術基本法から1年、今地域が取り組むべきこと～(仮)」
- ◎公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)および公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)のプレゼンテーション・セミナー
- ◎平成31年度「地域の文化・芸術活動助成事業」および「地域伝統芸能等保存事業」の助

成要綱に関する説明

- ◎平成31年度「リージョナルシアター事業」に関する説明
- ◎地域創造が実施する各種事業資料等の展示
- ◎都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議

新しく担当になられた皆様には、おんかつやダン活など地域創造の特色ある事業を生で知っていただく貴重な機会ですし、アーティストや他の地域の公共ホール等とのネットワークづくりや情報交換の場としてもご活用いただける絶好の機会です。参加される皆様に有益なイベントとなるよう準備を進めておりますので、参加のための日程を確保いただき、ぜひご来場ください。

プログラムの詳細と参加者募集は、次号(7月号)でご案内します。

●「市町村長特別セミナー」報告～全国の市町村長等68名が参加

毎年全国の市町村長等を対象に、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくために開催している「市町村長特別セミナー」が、4月19日に千葉市の市町村アカデミーにおいて開催されました。今回は地域創造の石川善朗常務理事より、自らの経験を交えながら地域にとって芸術・文化がいかに役立つかについて、地域の活力の基礎となる「人づくり」、観光などの「産業振興」、高齢者の生きがいといった「福祉」の観点からレクチャーが行われました。

「1990年代に急速に整備が進んだ公立文化施設が、大規模修繕の時期を迎えて大きな課題になっている。公共施設等総合管理計画などによる議論も行われているが、地域のためになろうという志とスキルをもった人材を育てることによって、芸術・文化はいくらでも地域に有効なものとして活用できる」とエールを送られていました。

また、財団の事業紹介の一環としておんかつ支援登録アーティストによるミニコンサートも行われました。今回登場したのは、チェロの加藤文枝さん(平成28・29年度登録アーティスト)とピアニストの小澤佳永さんです。多くの受賞歴をもつ加藤さんは、ソフトな語り口でトークをしながら全7曲を披露しました。

広く親しまれている名曲『愛の挨拶』に始まり、毎回同じように演奏しても違う白鳥のイメージが浮かんでくるというサン＝サーンスの『白鳥』、

チェロには珍しい超絶技巧の早弾きによるホッパーの『妖精の踊り』、バンドネオン奏者から作曲家になったピアソラがチェロのために作曲した情熱的な『ル・グラン・タンゴ』など。

なかでもパリに3年在住留学していたことがあるという加藤さん渾身の1曲が、生粋のパリジャンであるプーランクによる『チェロ・ソナタより第1、3楽章』でした。「作曲家がどういう思いで作曲しているかや曲の時代背景を知ること大切ですが、同じ曲も聴く人によってイメージはいろいろです。私がこの曲から感じているパリという都会とそこにいる人々の気質や雰囲気を楽しんでもらえればと思います」と加藤さん。

プロの演奏家とチェロの幅広い魅力を目の当たりにした市町村長からは何度も大きな拍手が起こるなど、アウトリーチの効用を実体験していただく貴重な機会になりました。



加藤文枝さんと小澤佳永さんによるミニコンサート

●地域創造フェスティバルに関する問い合わせ

芸術環境部 勝田・山居・岩藤・梅田
Tel. 03-5573-4093

●市町村長特別セミナーに関する問い合わせ

芸術環境部 菊地・仕田
Tel. 03-5573-4064

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●平成30年度「リージョナルシアター事業」研修会報告

平成30年度リージョナルシアター事業の参加団体と派遣アーティストが集まり、ワークショップやディスカッション、打ち合わせを行う研修会が、4月16日(月)、17日(火)の2日間にわたって当財団事務所に開催されました。今回は、今年度参加する9団体から16人の事業担当者が参加し、交流を深めるとともに、当事業の趣旨や可能性を共有する2日間となりました。

地域の課題やホールの展望などを踏まえながら、住民等を対象にしたワークショップや学校へのアウトリーチを行う当事業では、派遣アーティストと参加団体が協働しながらプログラムをつくり、実施していきます。今回の研修では、地域・ホールのやりたいことや抱える問題意識を派遣アーティストと共有するための相互の対話がさまざまな場面で行われました。

初日は、派遣アーティストからの「サジェスチョン&メッセージ」。アーティストから、これまでの実施例や自身のもつワークショッププログラムについて丁寧に説明があったほか、事前に今年度の参加館より各アーティストへ提出いただいていた質問についての回答や事業担当者へのメッセージが語られました。派遣アーティスト5人の話をじっくり聞いたことで、それぞれの個性やプログラムの多様性も示され、企画イメージを膨らませる取っ掛かりとなったようです。

続いての事例紹介においては、「リージョナル事業経験館の担当者に聞く」と題し、昨年度実施の神奈川県、一昨年度実施の愛知県春日井市か

ら担当者をお招きし、事業実施の成果や苦労などをお話いただきました。

神奈川県立青少年センターの藤岡審也さんからは、これまで連携が少なかった青少年センターの舞台芸術活動支援や青少年サポートなど4つの機能について、この事業を通じて、センター内に本当の意味で連携が生まれたこと、今後も継続事業として取り組むこととなったことが紹介されました。また、春日井市の小松淳子さんからは「事業を実施するうちに、一過性で終わらせるのではなく、ホールとして演劇とどう向き合っていくのかホール全体で考えていかなければいけないという意識が芽生えてきました」との言葉があり、参加者たちは事業実施後の展望についても思いを巡らせることになりました。

2日目は前日のオリエンテーションを踏まえて、派遣アーティストと参加団体による企画打ち合わせが行われました。それぞれのミッションや課題を基に、その地域ならではのプログラム実現に向けての熱心な話し合いがグループごとで行われ、最後には現時点での計画や事業実施後の展望についての発表がありました。鈴鹿市の工藤真里奈さんは「ワークショップを実施することで、地域の人が交流できる場をつくりたいと考えています。1日目のオリエンテーションを聞いて、新たに挑戦してみたいことも出てきました」と意欲を語ってくれました。その後、派遣アーティストと参加団体による個別の打ち合わせを行い、2日間の研修会を締めくくりました。



1. ごまのはえさんによる実施例紹介 2. 田上豊さんによるシアターゲーム 3. 多田淳之介さんから担当者に向けてメッセージ 4. 派遣アーティストとの打ち合わせ

●平成30年度「リージョナルシアター事業」参加団体

- 岩手県西和賀町
- 茨城県牛久市
- 埼玉県東松山市
- 埼玉県秩父市
- 新潟県魚沼市
- 愛知県小牧市
- 愛知県武豊町
- 三重県鈴鹿市
- 岡山県

●リージョナルシアター事業に関する問い合わせ

芸術環境部 藤原・梅田・水上
Tel. 03-5573-4124

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示しているのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 高澤・三田

●2018年8月号情報締切
6月29日(金)

●2018年8月号掲載対象情報
2018年8月～10月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

◎公共ホール等の求人情報

◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。
<http://www.jafra.or.jp/>

北海道・東北

●北海道函館市

北海道立函館美術館
〒040-0001 函館市五稜郭町37-6

Tel. 0138-56-6311 井内佳津恵
<http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/hbj/>

アートギャラリー北海道 北海道150年事業

北のさきがけ 道南四都物語
港町江差・城下町松前・開港地
函館・開拓地伊達

「北海道」の命名から150年となる本年を契機に、道内各地の美術館が連携し北海道全体をアートの舞台とする取り組み「アートギャラリー北海道」の企画として実施。江差町・松前町・函館市・伊達市の道南4都市と連携し、自治体や民間・個人が所蔵する文化財を、前後期合わせて約50点展示、江差町の姥神大神宮渡御祭で巡行する高さ約7mの荘厳な山車「松寶丸」も公開される。

[日程]4月28日～6月13日
[会場]北海道立函館美術館

●青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082 十和田市西二番町10-9

Tel. 0176-20-1127 金澤・南條
<http://towadaartcenter.com/>

十和田市現代美術館開館10周年記念展 スウ・ドーホー：Passage/s パサージュ

開館10周年を記念して、アジアを代表する世界的美術家スウ・ドーホーの個展を開催する。常設作品に加え、スウの代表的スタイルである半透明の布を使った大型彫刻作品の新作3点が発表されるほか、異なる文化間を行き来する作家の視点をとらえた映像作品が日本初公開され、人間性やアイデンティティとは何かという根本的な問いを

投げかける。
[日程]6月2日～10月14日
[会場]十和田市現代美術館

●秋田県秋田市

秋田県立美術館
〒010-0001 秋田市中通1-4-2
Tel. 018-853-8686 佐々木佳苗
<http://www.akita-museum-of-art.jp/>

夜と美術

古来より、夜という時間帯は人々の想像力を掻き立て、絵画や音楽のテーマとして取り上げられてきた。本展では、芸術家たちが心を動かされた夜の世界をテーマに、秋田県立近代美術館、秋田市立千秋美術館の協力も得て、県内で活躍する作家の作品を中心に展示。絵画や写真、彫刻などさまざまな夜の造形を楽しむことができる。

[日程]4月7日～7月8日
[会場]秋田県立美術館



佐々木裕久《鳥偲考一韻》(1979年/秋田県立近代美術館蔵)

関東

●栃木県栃木市

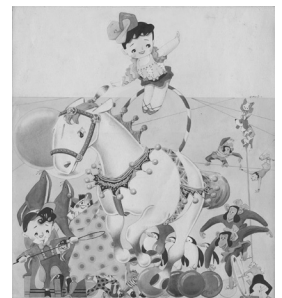
とちぎ蔵の街美術館
〒328-0015 栃木市万町3-23
Tel. 0282-20-8228 竹林佐恵
<http://www.city.tochigi.lg.jp/hp/menu000004000/hpg000003590.htm>

松本かつぢ かわいい!づくし

松本かつぢ(1904～86)は、抒情画家・漫画家・童画家・グッズクリエイターとして多彩な才能を発揮したアーティストで、栃木市ゆかりの作家・吉屋信子の著作の装丁、挿画を手がけたことでも知られる。かつぢの生み出した作品の数々は、少女雑誌文

化が花開いた昭和の初め、少女たちの憧れを誘い、今に続く日本の「かわいい」文化のパイオニアともなった。原画や資料など「かわいい」があふれる展示で、かつぢの魅力を紹介する。

[日程]4月17日～7月16日
[会場]とちぎ蔵の街美術館



松本かつぢ《くるみちゃんサーカス》(1953年) ©松本かつぢ

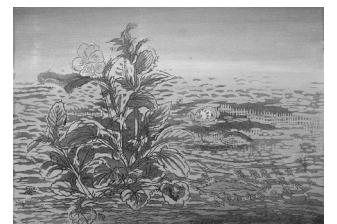
●栃木県小山市

小山市立車屋美術館、栃木県立美術館
〒329-0214 小山市乙女3-10-34

Tel. 0285-41-0968 五十嵐直子
<http://www.city.oyama.tochigi.jp/site/kurumayamuseum/>

アートリンクとちぎ2018 栃木県立美術館所蔵作品展 自然を愛した小山の偉人 没後50年古川龍生木版画展

栃木県立美術館が市や町に所蔵品を貸し出すプロジェクト「アートリンクとちぎ」の一環として、小山市羽川に生まれ、故郷の自然を愛した木版画家・古川龍生の没後50年を記念した展覧会を開催。ほとんどの作品が1枚しか刷られていなかった



古川龍生《昆虫戯画巻 平和篇 緑陰労働》(1933年/栃木県立美術館蔵)

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

たため、作品数が少なく、没後まとまった作品を鑑賞できる機会が少ない作家の、人間と自然の共生をテーマとした色彩豊かな木版画39点を紹介する。

[日程]5月2日～6月3日

[会場]小山市立車屋美術館

●さいたま市

埼玉県芸術文化振興財団

〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1

Tel. 048-858-5500 田中美樹

<http://www.saf.or.jp/>

さいたまネクスト・シアター0 (ゼロ)世界最前線の演劇1 [ベルギー]『ジハード-Djihad』

「時代を担う若手俳優の育成」を目的に2009年に蛭川幸雄が立ち上げ、公演を通じた実践的な俳優育成を行っている若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」。2018年度より新たな取り組みとして「世界最前線の演劇」をスタートする。第1弾は、国際演劇協会日本センターでリーディング上演された作品をブラッシュアップして日本初演、各回アフタートークも実施し、作者の登壇も予定。

[日程]6月23日～7月1日

[会場]彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県旭市

千葉県東総文化会館

〒289-2521 旭市ハ666

Tel. 0479-64-2001 鈴木綾子

<http://www.cbs.or.jp/toso/>

知って!感じて!ホールのピアノ～ピアノの魅力を発見しよう～

スタインウェイとベーゼンドルファー2台のピアノの音色や響きの違いを楽しむ企画。国内外で活躍する旭市出身のピアニスト實川風と船橋市出身の高橋ドレミが講師を務める公開レッスンの様子を鑑賞できる。レッスン後には2台のピアノによるミニコンサートを実施。

[日程]6月10日

[会場]千葉県東総文化会館

●東京都世田谷区

せたがや文化財団

〒154-0004 世田谷区太子堂4-1-1

Tel. 03-5432-1526 大下玲美

<https://setagaya-pt.jp/>

狂言劇場 特別版 能『鷹姫』・狂言『楯山節考』

野村萬斎芸術監督企画「狂言劇場」シリーズでは、劇場空間に特設能舞台を設置し、劇場の高さ、照明、映像効果を生かしたオリジナリティあふれる狂言が上演される。今回はその特別版として、人間国宝の大槻文蔵らを迎え、主演目に初めて能の演目が登場。視覚障がい者のための舞台説明会など各種観客サポートも行われている。

[日程]6月22日～24日、30日～7月1日

[会場]世田谷パブリックシアター

●東京都調布市

調布市文化・コミュニティ振興財団

〒182-0026 調布市小島町2-33-1(調布市文化会館たづくり内)

Tel. 042-441-6171 土井尚治

<http://chofumusicfestival.com/cmf2018/>

調布国際音楽祭2018

毎年初夏に開催されており6年目を迎えるクラシック音楽祭で、今年も「バッハの演奏」「アートとの連携」「次世代への継承」という3つのテーマで開催。この音楽祭の柱のひとつとなったフェスティバル・オーケストラは、若い音楽家と創り上げるエネルギーと刺激に満ちており、フィナーレには滅多に上演されないモーツァルトのオペラを演奏会形式で上演する。

[日程]6月24日～7月1日

[会場]調布市グリーンホール、調布市文化会館たづくり、深大寺ほか

●東京都青梅市

青梅市立美術館

〒198-0085 青梅市滝ノ上町1346-1

Tel. 0428-24-1195 田島奈都子

<http://www.ome-tky.ed.jp/shakai/bijutsu/index.html>

再考 西多摩を描く1

1994年から4回シリーズで好評を博した「西多摩を描く」で展示された池田幹雄、栗原一郎、長崎莫人、松山幾三郎の作品を、地域ごとに再編成して「再考」する企画展。現在の西多摩の風景写真と並べることで、絵画と写真、歳月の流れを味わえる。会期中には、日本画家講師の下、作品の題材となった場所を作画する市民向けデッサンの実技講座も開催予定。

[日程]6月2日～7月8日

[会場]青梅市立美術館

●東京都八王子市

八王子市学園都市文化ふれあい財団

〒192-0066 八王子市本町24-1

Tel. 042-621-3005 新田利穂

<http://www.hachiojibunka.or.jp>

八王子音楽祭2018～八人の王子たち 第3楽笑!～

第10回を迎える音楽祭は「八王子、クラシックを語る!」と題し、クラシックファン以外の方にも楽しんでもらえる企画が市内各地で多数開催される。歌手、サクソ、弦楽器、ピアノの計8人のアーティストによる「八人の王子たち」は一昨年より毎年開催し今年で3回目。クラシックから昭和歌謡まで多岐にわたるジャンルを演奏する。

[日程]6月7日

[会場]八王子市芸術文化会館(いちようホール)

●横浜市

神奈川芸術文化財団

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

Tel. 045-662-5901 塩野尚子

<http://www.kanagawa-kenminhall.com/>

オープンシアター2018

すべての人が多様な文化芸術にふれることができるよう、ホールの特性を楽しみながら体験する公演や展示、ワークショップを開催。県民ホール大ホールでは、オリジナル日本語台本によるオペラ『ヘンゼルとグレーテル』を上演するほか、メイキング・シアターやオルガン等のコンサート、編み物ワークショップなどを各所で展開する。

[日程]5月30日～6月3日

[会場]神奈川県民ホール、KAA T神奈川芸術劇場

●横浜市

横浜能楽堂

〒220-0044 横浜西区紅葉ヶ丘27-2

Tel. 045-263-3055 秦野・遠山

<http://www.ynt.yaf.or.jp>

花開く伝統～日台の名作と新作～

崑劇の古典作品『繡襦記』を下地に夢幻能の形式を取り入れ、日本の三味線音楽を融合させた、横浜能楽堂と台湾の国光劇団が共同制作した『繡襦夢(しゅうじゆむ)』を世界初演。主演は、世界で初めてNYで『牡丹亭』を完演した崑劇のトップスター・温宇航。音楽は三味線に加え長唄奏者が日本から



国光劇団 崑劇『牡丹亭』
Photo by Ge Chan-Hui

参加し、国光劇団の演奏家と共演する。崑劇のほかに日本舞踊の名曲『藤娘』(9日)、『汐波』(17日)なども上演する。
[日程]6月9日、17日
[会場]横浜能楽堂

●川崎市

麻生音楽祭実行委員会
〒215-8570 川崎市麻生区万福寺1-5-1(麻生区役所地域振興課内)
Tel. 044-965-5370 村野民樹
<http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/0000027672.html>

第33回麻生音楽祭2018

1986年に区民手づくりのイベントとして始まり、33回目を迎える伝統の音楽祭。「音楽の街 [あさお]」をキャッチフレーズに、麻生区を中心に活動する地域の音楽グループや、小・中・高校の生徒が日頃の練習の成果を発表し、子どもからシニアまで音楽を愛する人たちが集うコーラスの祭典や、地元のアマチュアオーケストラによるファミリーコンサートなどが実施される。
[日程]6月17日、23日、24日、7月1日、7日、8日
[会場]麻生市民館ホール

●神奈川県平塚市

平塚市美術館
〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3
Tel. 0463-35-2111 土方・家田
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/art-muse/>

岡村桂三郎展—異境へ

従来の日本画にはない物質感や重厚な存在感を感じさせる岡村桂三郎の独特な造形は、巨大な杉板に方解末を塗り重ね、スクレーパーでうろこ状に線刻するという特異な手法から生み出される。人間の背丈を超える作品で狭い通路や独立した部屋を展示室内につくり上げ

ることで胎内巡りをしているような感覚を味わえる体感型の展覧会。
[日程]4月21日～6月24日
[会場]平塚市美術館

北陸・中部

●新潟県妙高市

妙高市文化ホール
〒944-0046 妙高市上町9-2
Tel. 0255-72-9411 大野雅季
<http://myoko-bunka.jp/>

みょうこうファミリーまつり&出 会い～子育て応援フェア

子どもだけでなく大人も一緒に楽しめるコンサートや飲食ブース、縁日コーナーなどが出展され、家族全員で楽しめるイベント。ステージには、世界最大級のダンスコンペティション「VIBE Dance Competition」(米国)ジュニア部門で初優勝した新潟のキッズダンスグループCHIBI UNITYも出演。世界大会で披露したパフォーマンスを行う。
[日程]5月27日
[会場]妙高市文化ホール、新井総合コミュニティセンター



CHIBI UNITY

●富山県富山市

富山市ガラス美術館
〒930-0062 富山市西町5-1
Tel. 076-461-3100 高橋・青木
<http://toyama-glass-art-museum.jp/>

ダブルリフレクション:世界を見 つめなおす瞬間(とき)

普段意識しなければ見過ごしてしまうことに着目し、私たちの認識を揺さぶるような作品を制作する4名の作家(中西信

洋、笹川健一、山本一弥、松宮硝子)を紹介する企画展。ガラスやフィルム、透明樹脂作品に共通する透過性や反射といった特徴を展示によって引き立たせる。
[日程]4月7日～6月17日
[会場]富山市ガラス美術館

●石川県七尾市

七尾美術財団
〒926-0211 七尾市能登島向田町125-10
Tel. 0767-84-1175 米田晴子
<http://nanao-af.jp/glass/>

ガラスの植物園

私たちの感情に寄り添いながら、暮らしのさまざまな場面を彩る「植物」をテーマにしたガラス造形の展覧会。現代作家5名による計53点の作品を展示する。植物の魅力的な姿や生命力が作家の創造力を掻き立て、生み出された多彩なガラス造形の植物を見ることができる。
[日程]4月21日～7月22日
[会場]石川県能登島ガラス美術館

●福井県あわら市

金津創作の森財団
〒919-0806 あわら市宮谷57-2-19
Tel. 0776-73-7800 石川達紘
<https://sosaku.jp/>

第9回森の作家展—出合いを カタチに 20年目の森—

金津創作の森に住居・アトリエを構える入居作家の作品展。開

館20周年記念展として開催される今回のテーマは「出会い」。6名の入居作家が、これまでの活動の中で出会った作家とコラボレーションし、新たな可能性を表現した約70点の作品を展示。会期中は、出展作家による作品解説なども開催する。
[日程]4月21日～6月10日
[会場]金津創作の森

●長野県伊那市

長野県伊那文化会館
〒396-0026 伊那市西町5776
Tel. 0265-73-8822 川上真奈美
<http://inabun.or.jp/>

開館30周年記念 伊那音楽祭

伊那文化会館開館30周年事業。2日間にわたり日本を代表する演奏家16名が参加。ここでしか見られない演奏家の組み合わせによる「究極の室内楽」コンサート。最終日には地元高校生も参加して、ベートーヴェン交響曲第1番を演奏し、地元とコラボも行われる。
[日程]6月30日、7月1日
[会場]長野県伊那文化会館

●岐阜県岐阜市

サラマンカホール
〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-53
Tel. 058-277-1113 岡田進司
<https://salamanca.gifu-fureai.jp/>

ジャコバン国際ピアノ音楽祭 2018 in 岐阜

フランスで開催されている歴史あるジャコバン国際ピアノ音楽祭の「ピアノでみんながひとつになる。」の精神をそのままに、気軽に足を運んでもらえる音楽祭を開催。クラシックはもちろん、ジャズやピアノ講座、市民参加による「ピアノ・リレー」を企画。現地トゥールーズの街をイメージし、会場・舞台をバラで装飾するほか、食文化にふれることができる交流エリアを



山田信雄《暫金時》(2018年/竹)

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

設ける。

[日程]6月9日、10日

[会場]サラマンカホール

●静岡県菊川市

菊川文化会館アエル
〒439-0018 菊川市本所2488-2
Tel. 0537-35-1515 岩腰理樹
<http://kikugawa-ael.jp/>

アエル珠玉の音楽シリーズ5 仲道郁代 お茶クラシック

著名な演奏家を招いてクラシック音楽を届けるシリーズ。今回は静岡県出身のピアニスト・仲道郁代が登場。第1部では、仲道がお茶のテイストに挑戦し、お茶の味わいに合った曲を演奏。音楽とお茶の不思議な組み合わせにより、新たなお茶の世界の広がりをつくり出す。第2部では、「仲道郁代ピアノ・リサイタル～名曲の花束」で珠玉の名曲を届ける。

[日程]6月30日

[会場]菊川文化会館アエル

●静岡県掛川市

掛川市二の丸美術館
〒436-0079 掛川市掛川1142-1
Tel. 0537-62-2061 池田恵美子
<http://www.kakegawa-artpark.com/ninomaru/>

開館20周年記念 男も女も装身具―煙草入れと櫛かんざしの美―

開館20周年を記念した特別展として、収蔵品「木下コレクション」の煙草道具を“男の装身具”とするのに対し、「澤乃井櫛かんざし美術館」所蔵の櫛かんざしを“女の装身具”とし、双方合わせて600点もの美術工芸品が展示される。実用と装飾を兼ね備えたこれらの作品は、多彩な意匠と細密な技巧で、美しいだけでなく歴史的にも価値のある文物として、その姿を今に伝えている。

[日程]4月21日～6月24日

[会場]掛川市二の丸美術館

近畿

●三重県伊賀市

伊賀市文化会館
〒518-0809 伊賀市西明寺3240-2
Tel. 0595-22-0511 友田律子
<http://www.bunto.com/>

クラシックのいろは2018 徹底的にベートーヴェンVol.1「運命はこのように扉を叩く」

「クラシックのいろは」は、10年後には地域のクラシック人口1%を目指そうプロジェクトのひとつ。今年度はベートーヴェンに焦点を当て、まずは大阪交響楽団による交響曲第5番「運命」を取り上げる。年4回のホールコンサートに合わせ、初心者にも親しんでもらえるようプレレクチャーを開催するほか、地元出身音楽家によるワンコインコンサート「bimonthlyコンサート」も企画している。

[日程]6月17日

[会場]伊賀市文化会館



「クラシックのいろは2017」小学校アウトリーチの様子

●滋賀県草津市

滋賀県立近代美術館、滋賀県立琵琶湖博物館
〒520-0807 大津市松本1-2-1
滋賀県大津合同庁舎5F(滋賀県立近代美術館事務所)
Tel. 077-522-2111 山口・大原・和澄
<http://www.shiga-kinbi.jp>

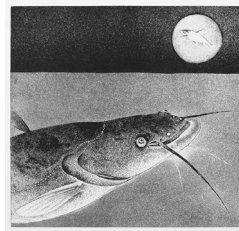
描かれた湖国の生き物と風景

滋賀県立近代美術館の長期休館期間を生かし、初となる滋賀県立琵琶湖博物館とのコラボレーション展示を実現。滋賀な

らではの風景や生き物、風俗、文化を描いた絵画など、美術館所蔵品から約40点をセレクトし、博物館所蔵資料とともに紹介する。美術の視点だけでなく、自然科学や歴史学といった視点からも作品を鑑賞でき、総合博物館の特性を生かした展示となっている。

[日程]4月28日～6月3日

[会場]滋賀県立琵琶湖博物館



西内利夫《琵琶湖の仲間たち 大ナマズ》(1980年/滋賀県立近代美術館蔵)

●京都市

京都府立堂本印象美術館
〒603-8355 京都市北区平野上柳町26-3
Tel. 075-463-0007 松尾敦子
<http://insho-domoto.com/>

リニューアルオープン記念展覧会「堂本印象 創造への挑戦」

リニューアルオープン記念展覧会第1弾として、日本画家・堂本印象の初期から晩年の作品を一堂に展示。若き日の出世作《調鞠図》(4月30日展示終了)や、最高裁判所のために描いた巨大抽象画《豊雲》をはじめ、ひとつの様式に安住することなく、常に新しい日本画を追求し続けた堂本の多彩な画業を紹介する。

[日程]3月21日～6月10日



堂本印象《木華開耶媛》(1929年/京都府立堂本印象美術館蔵)

[会場]京都府立堂本印象美術館

●京都市

京都市、京都市芸術文化協会
〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
Tel. 075-213-1003 小島寛大
<http://www.kac.or.jp/>

京都いけばなプレゼンテーション2018<すこいづ!いけばな>

いけばなの日(6月6日)にちなんだ、華道家によるフェスティバル。34流派約60名の作品が披露されるほか、陶芸家・料理人・華道家3人によるトークイベント、いけこみの実演、ミニ講座、ワークショップなども開催する。ドリンクコーナー(有料)もあり、会場内をゆっくりと回遊しながら生け花に親しむことができる。

[日程]6月2日、3日

[会場]京都芸術センター

●大阪府箕面市

箕面市メイプル文化財団
〒562-0001 箕面市箕面5-11-23
Tel. 072-721-2123 和田大資
<http://minoh-bunka.com>

財団設立30周年記念事業〈身近なホールのクラシック・スペシャル〉ギル・シャム ヴァイオリン・リサイタル

クラシック音楽を誰もが楽しんでほしいという願いを込めた「身近なホールのクラシック」企画。財団設立30周年となる今年は、世界的なヴァイオリニストのギル・シャムを迎え、日本では3年ぶりとなるソロ・リサイタルを開催。関連事業として、次代を担う子どもたちを招待した公開リハーサル「メイプルホールで世界一流のヴァイオリンの響きを体験しよう!」を実施する。

[日程]6月21日

[会場]箕面市立メイプルホール

●大阪府能勢町
能勢人形浄瑠璃実行委員会
〒563-0341 豊能郡能勢町宿野30(浄るりシアター内)
Tel. 072-734-3241 乾はるな
<http://www.jyoruri.jp/>

浄るりシアター開館25周年・能勢人形浄瑠璃デビュー20周年
2018年6月能勢浄るり月間
『能勢人形浄瑠璃鹿角座公演』

200年以上の歴史をもつ“能勢の浄瑠璃”(太夫と三味線の素浄瑠璃)に人形・囃子を加えた「能勢人形浄瑠璃」がデビュー20周年を迎える。『絵本太功記』を中心とした3演目の上演に加え、地域との協働で誕生した能勢人形浄瑠璃PRキャラクターの浄瑠璃人形が舞台に出演。衣装や舞台美術等に趣向を凝らした鹿角座オリジナルの演出を披露する。
[日程]6月23日、24日
[会場]浄るりシアター

●兵庫県篠山市
兵庫陶芸美術館
〒669-2135 篠山市今田町上立杭4
Tel. 079-597-3961 村上ふみ
<http://www.mcart.jp/>

県政150周年記念事業「ひょうごのやきもの150年一技・匠からアート・個性へ」

窯業の盛んな兵庫の明治～現在につくられたやきものを時代背景とともに紹介する展覧会。



出石/出石改良陶磁器株式会社 白磁貼花菊文籠形壺(20世紀初頭/兵庫陶芸美術館蔵(田中寛コレクション))

高い技術を誇る輸出陶磁、伝統を継承する工芸士や現代の作家による作品を通して、やきものを取り巻く状況の変化を追う。県の表彰制度である文化賞・芸術奨励賞受賞者の陶芸作品も含め111点を展示。
[日程]6月9日～9月9日
[会場]兵庫陶芸美術館

●奈良県奈良市ほか
ムジークフェストなら実行委員会
〒630-8501 奈良市登大路町30 奈良県文化振興課内
Tel. 0742-27-8917 上垣内慎二
<http://www.naraken.com/musik/>
ムジークフェストなら2018

2012年に始まった、奈良の街中が音楽であふれる音楽祭。音楽ホールや美術館、街なかをはじめ、東大寺や薬師寺など世界遺産の社寺など奈良らしい会場で、クラシックを中心に、ジャズやポップスなど、さまざまなジャンルの音楽を楽しめるほか、公演アーティストによるアウトリーチも実施される。7回目の今年は、県内29市町村で全288公演が行われる。
[日程]5月7日～6月3日
[会場]世界遺産社寺(春日大社、東大寺、唐招提寺、元興寺、薬師寺、金峯山寺)、奈良県文化会館ほか県内各所



昨年度のオープニングの様子(東大寺大仏殿)

●和歌山県和歌山市
和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14
Tel. 073-436-8690 植野比佐見
<http://www.momaw.jp/>

産業と美術のあいだで
—印刷術が拓いた楽園—

2011年から印刷と美術の関連について不定期に開催している展覧会。今回は、さまざまな印刷術が人の創造力を刺激することで、新たな美術作品が生まれてきた側面を紹介する。所蔵する版画を中心に、印刷資料、絵画など195点を展示。美術の表現が、日常の中に普遍的にあるものから創造の力を得ていることを知り、アートをより身近に感じることが出来る機会を提供する。

[日程]4月14日～6月24日
[会場]和歌山県立近代美術館



若山八十氏《変ないきもの》(1961年/謄写版/和歌山県立近代美術館蔵)

中国・四国

●鳥取県倉吉市
アザレアのまち音楽祭事務局
〒682-0817 倉吉市住吉町77-1 (倉吉市文化活動センター内)
Tel. 0858-23-6095 計羽孝之
<http://kura-azalea.sakura.ne.jp/>

第36回アザレアのまち音楽祭2018

倉吉市の花・つつじにちなんだ名が付けられた音楽祭。今年で36回を数え、約1か月半に及ぶ開催期間中、地元在住・出身のプロ、アマチュア演奏家による声楽・管楽器・ピアノ・室内楽・合唱など多彩なコンサート26公演が行われる。オープニングでは2年に一度、当音楽祭に

貢献した人を表彰する「アザレア賞表彰式」も。

[日程]5月13日～6月24日
[会場]倉吉未来中心、倉吉交流プラザ、倉吉博物館玄関ホール

●岡山県真庭市
真庭エスパス文化振興財団
〒719-3214 真庭市鍋屋17-1
Tel. 0867-42-7000 池田晃浩
<http://kuse-espase.jp>

旧遷喬尋常小学校講堂コンサートvol.1～重要文化財に木霊すピアノとソプラノの調べ～

明治末期に完成し、百有余年経過した現在もなお、当時の威容を誇る国指定重要文化財の旧遷喬尋常小学校。今回開催する、佐野隆哉(ピアノ)と三宅理恵(ソプラノ)による講堂コンサートでは、音楽や音響の素晴らしさだけでなく、建物に宿る歴史の重みにも目を向け未来へ繋ぐ想いを込め、音楽と歴史がもつ力を伝える。

[日程]6月2日
[会場]旧遷喬尋常小学校

●岡山県備前市
備前市立備前焼ミュージアム
〒705-0001 備前市伊部1659-6
Tel. 0869-64-1400 江木淳人
<http://www.city.bizen.okayama.jp/shimin/shisetsu/museum/museum.html>

土と生きる
岡山ゆかりの現代作家

陶の造形の可能性を追求し、土という素材に対し真摯に向き合い精神的に活動する岡山県ゆかりの20～40歳代の作家9名を紹介。茶陶や器から、抽象的・具象的な現代陶芸まで、多種多様な造形技法によって生み出された作品約50点を作陶道具などとともに展示し、9人9様の土との対向性、その内面から湧き上がる表現を堪能できる。

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

[日程] 4月26日～7月1日
[会場] 備前市立備前焼ミュージアム



小橋順明《セミの幼虫》(2018年)

●岡山県勝央町 勝央美術文学館

〒709-4316 勝田郡勝央町勝間田207-4

Tel. 0868-38-0270 野村英子
<http://museum.town.shoo.lg.jp/>

郷土の画家シリーズ【第I期】 —桜満ちて牛嘶くか—

共に2013(平成25)年に亡くなった勝央町出身の洋画家の水野恭子と高山始の作品を中心に紹介する。それぞれの作家が晩年精力的に取り組んだテーマ「桜」と「牛小屋」に焦点を当て、その代表作を展示。ほかにも勝央町出身の福島金一郎や水野の師である勝央町出身の赤堀佐兵、高山始と関係の深い光風会岡山支部の作家たちの作品など20点余りを併せて紹介する。

[日程] 4月21日～7月1日
[会場] 勝央美術文学館

●香川県丸亀市

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館
〒763-0022 丸亀市浜町80-1

Tel. 0877-24-7755 高木瑞季
<http://mimoca.org/>

荒井茂雄展 人生の詩

猪熊弦一郎に師事した画家・荒井茂雄の個展。油彩・立体・コラージュなど、多彩な表現の作品約90点を通して、70年以上に及ぶ画業を「人生の詩」と題し第二の故郷・丸亀市で初めて一堂に紹介される。猪熊の

作品展「猪熊弦一郎のおもちゃ箱」も同時開催しており、師弟の画業を同時に展覧する機会ともなっている。作品をより理解するためのキュレーターズ・トークも実施される。

[日程] 4月14日～7月1日

[会場] 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館



荒井茂雄《楽園》(1974年/丸山晚霞記念館蔵)

九州・沖縄

●北九州市

北九州市立響ホール
〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1

Tel. 093-663-6661 神田和範
<http://www.kicpac-music.jp/>

YAHATA MUSIC PROJECT 響ホールフェスティバル2018

「音楽とダンス」をテーマに学校・企業・商店街等と連携し、音楽を通して人との繋がりを深めようとするプロジェクト集大成のフェスティバル。地元の演奏家や俳優、脚本・演出家によるショート&ドラマチックオペレッタ『こうもり』、響ホール室内合奏団による「0歳からの踊る音楽会」のほか、楽器づくりやダンスのワークショップなどさまざまなイベントが繰り広げられる。

[日程] 6月23日、24日

[会場] 北九州市立響ホール



響ホールフェスティバル2018 オペレッタ『天国と地獄』

●長崎県佐世保市

アルカスSASEBO
〒857-0863 佐世保市三浦町2-3

Tel. 0956-42-1111 小森大悟
<http://www.arkas.or.jp/>

セレノグラフィカ コンテンポラリーダンス公演『とこしえに～ARKASで～』

ダンスカンパニー・セレノグラフィカ(隅地茉歩+阿比留修一)による公演。昨年、長野県上田市で1カ月をかけて滞在制作され、男女のデュエットというあり方にこだわり続けた20年のすべてを注ぎ込んだというカンパニー結成20周年記念作品『とこしえに』を、佐世保の特徴を取り入れたリメイクを行い、“佐世保バージョン”として再演する。

[日程] 6月15日

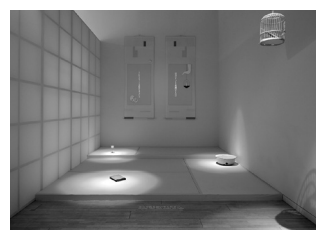
[会場] アルカスSASEBO

●大分県大分市

アート&デザインの大茶会展実行委員会、大分県立美術館
〒870-0036 大分市寿町2-1
Tel. 097-533-4500 木藤・宗像・宇都宮
<http://www.opam.jp/>

アート&デザインの大茶会 マルセル・ワンダース、須藤玲子、ミヤケマイ

美術館アトリウムの作品を手がけ、開館当初から親しまれている3人の作家による展覧会。ミヤケマイは展示室内に茶室をつくり、茶道とも関連の深い「陰陽五行」の要素をテーマとした作品を展示。茶室は最新のテクノロジー技術を駆使し、一人ひ



ミヤケマイ《必然》(2013年) 写真: 繁田論

とりの行動や志向に合わせ、音や光等で鑑賞をナビゲートする体験型の展示となる。

[日程] 6月15日～7月22日

[会場] 大分県立美術館

●宮崎県宮崎市

宮崎県立芸術劇場
〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 工藤治彦
<http://www.miyazaki-ac.jp/>

「演劇・時空の旅」シリーズ#8 1928年/ドイツ『三文オペラ』

世界各地で残されてきた戯曲をガイドブックに人類史をたどるシリーズ企画。九州各地を拠点に活動する俳優を集め、約1カ月の期間をかけて演劇作品をつくり、宮崎県立芸術劇場から県内外へ発信していくことを目的として2008年度から取り組んできた。最終公演となる今回は、プレヒトの『三文オペラ』を劇団こふく劇場の永山智行の演出で上演する。

[日程] 6月22日～24日

[会場] メディキット県民文化センター



「三文オペラ」 ©T.Saita

夏休み子ども企画/ フェスティバル情報 求む!

7月号(6月25日発行予定)では恒例の「夏休み子ども企画/フェスティバル特集」を予定しています。下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4066
Fax. 03-5573-4060
letter@jafra.or.jp
締め切り: 6月5日(火)

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

山口県山口市 山口情報芸術センター [YCAM] YCAMスポーツ ハッカソン2018



当日行われた競技(上:「痕跡を残すな!テクノスネーク」、下:「だるまさんがまわった」)

●「YCAMスポーツハッカソン2018」
[主催]山口市、公益財団法人山口市文化振興財団

[会期]2018年5月4日～6日

[会場]山口情報芸術センター[YCAM]

[講師]西翼、犬飼博士、米司隆明、岩谷成晃(ゲスト・デベロッパプレイヤー:岸野雄一、contact Gonzo、菅野創)

*1 「ハッカソン」とは、ハッキング(広い意味でのソフトウェアやプログラミング)とマラソンを合わせた言葉。そもそもはアメリカのIT業界で、多くのプログラマーが1日から1週間の合宿形式でソフトウェアの開発や既存システムの改善を行うイベントを指す。日本では、導入当初から、IT以外の分野との連携がさまざまに行われるようになり、異業種が集まったオープンイノベーションの手段として、また、地域における新たなコミュニティ・デザインのツールとして、独自の展開を見せている。

*2 YCAMでは開館以来、国内外のアーティストや研究者、エンジニアと共にメディアテクノロジーを応用したオリジナルのインスタレーションやパフォーマンスなどの滞在制作を实践。また、メディアテクノロジーと市民を繋ぐ教育プログラムを開発。インターラボの専門スタッフがこうしたノウハウを蓄積し、独自システムの開発なども行ってきた。インターラボを率いるR&Dディレクターの伊藤隆之さんは、YCAMのノウハウの特徴を「アイデアの大切な部分を迅速に理解する力と、低コストでの素早い開発力、カスタマイズ力」と言う。スポーツハッカソンでもインターラボのスタッフがフル稼働し、デベロッパをサポートしている。

*3 登録してあるさまざまな「かけっこ」の記録をスクリーンに映し出し、その記録とかけっこで競争できる装置のこと。自分の記録だけでなく、動物の記録、スポーツ選手の記録などもかけっこできる。

ITとアートを融合するユニークな活動で知られる山口情報芸術センター[YCAM]で、「YCAMスポーツハッカソン2018」^(*1)が5月4日～6日に開催された。メディアテクノロジーを駆使した新しいスポーツを全国から集まった39名が2日間で開催。6日には開発された“世界初”の競技を実際に楽しむ「第3回 未来の山口の運動会」を実施し、大人も子どもも一緒に4チームに分かれ、約250人の市民が8競技を競い合った。

●
会場のスタジオAには、前と後ろに2面の巨大モニター、天井にモーションキャプチャのための20台のカメラを設置。プロジェクション・マッピングが投影される10メートル四方のグラウンドは種目ごとに投影映像によって自在に変化し、競技の様も即時にモニターに投影される。YCAMならではの^(*2)「電子体育館」で、開発の合宿もここで行われる。議論しながら開発(デベロッパ)と遊び(プレイ)を繰り返す「デベロッパプレイ」というスポーツハッカソンならではの手法を使い、20～30歳代男性を中心に中学生から55歳までの参加者(デベロッパプレイヤー)が、YCAMや参加者が準備したデジタルツールと運動会グッズを活用した競技を考案。当初200近くあったアイデアを分類し、実現したいアイデアを選び、4チームに分かれて具体化していった。

メディアテクノロジーを使ったスポーツとは一体どういうものなのだろうか。例えば「だるまさんがまわった」では、中央のスマートフォンがセットされた柱を4人でぐるぐる回すと、プロジェクション・マッピングで投射されたグラウンドの色面も連動してぐるぐる回っている(左写真)。回す側は、回転の向きやスピードを変え、グラウンド上の相手チームは、走ったり、待ち受けたりして、柱をストップしたときに白色のセーフティゾーンにどれだけ人が残っているかを競う。その他、人物情報が入ったNFCタグを縫い込んだ布製のボールの山から1つを選び、モニターに映し出された人物を探して連れてくるといったIT版借り物競争や、長い行列の先頭の人

を最後尾の人がどれだけズレないで迎えるかを競うテクノスネーク(左写真)など、身体を張る完成度の高い競技がさまざまに提供されていた。

スポーツハッカソンの場合は、YCAM内に留まらない。YCAMインターラボ・エドゥケーターの朴鈴子さんは、「アートを拠点としたYCAMの活動はなかなか市民に伝わりにくい。スポーツという文脈が、市民とYCAMの距離をグッと縮めてくれていると感じている。この事業を始めた15年から市内の小学校約15校で子どもたちと新しいスポーツをつくる出張プログラムを実施してきた。スポーツ開発を通じて『ルールは自分たちでつくれる』という創造性にふれ、あらゆる事象を柔軟に自分なりに捉えるパワーを身につけてほしい。きっとそれはアートをどのようにみるのか?という力にも繋がると思う」と語ってくれた。

ハッカソンならではのイノベーション力も見逃せない。2013年にYCAM10周年記念祭の公募展で「スポーツタイムマシン」^(*3)を提案したことが縁で15年に「YCAMスポーツ・リサーチ」プロジェクトに参画し、スポーツハッカソンを仕掛けた(一財)運動会協会理事の犬飼博士さんは、「スポーツハッカソンでは、つくる行為と遊ぶ行為、つくる人と遊ぶ人は分かれていない。コンピュータゲームも遊びであるなら、それも不可分であると考えるのが自然。僕は、未来の運動会はすべてのモノがインターネットで繋がるIoT(Internet of Things)の時代におけるゲーム開発の理想的なプラットフォームになると思っている」とその大きな意義を指摘する。

自分でつくったNFCタグ入りボールを持ち込み、デベロッパプレイヤーとして参加した根津将之さんは、「最初はちっぽけなアイデアでも、いろんな人が実際に遊ぶことでアイデアが広がっていく。完成した後も運動会参加者が必勝法を考えるからさらに発展し、つくった側が『ヤラレター!』となる」のが醍醐味だと言う。創造のダイナミズムを参加者すべてが真剣に遊びながら体感する——そこから新たなイノベーションが生まれ、また、コミュニティも育っていく。スポーツハッカソンとはそうした実に優れた企みとなっているのである。(山名尚志)